

- 問1 平安時代末期、地方における武士の台頭や浄土信仰の広がりを背景に、東北地方の平泉で独自の文化が栄えました。この文化において、奥州藤原氏が極楽浄土の様子を地上に再現しようとして建立した建築物を選びなさい。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
1. 唐招提寺金堂 2. 中尊寺金色堂 3. 東大寺大仏殿 4. 平等院鳳凰堂
-
- 問2 平安時代中期の貴族文化においては、藤原頼通によって建立された平等院鳳凰堂に代表されるように、末法思想の影響を受けて極楽浄土を願う文化が栄えました。このような藤原氏を中心とした摂関政治の時代から、後三条天皇による政治の転換点にかけての説明として正しいものはどれですか。 (2026年 奈良県公立入試 類似)
1. 後三条天皇は、遣唐使を廃止することで国風文化をさらに発展させることに注力した。 2. 平将門の乱が鎮圧された直後、武士の力を背景に後三条天皇が摂関家を追放した。 3. 後三条天皇は、自らが上皇となった後も政治を行う「院政」の仕組みを完成させた。 4. 藤原氏との血縁関係が薄い後三条天皇が即位したことで、摂関家による実権掌握が困難になった。
-
- 問3 桓武天皇は、朝廷の支配力を高めるために東北地方へ大規模な軍を派遣しました。このとき、軍の総大将として任命され、蝦夷（えみし）の抵抗を抑えて現在の岩手県に胆沢城を築くなどの成果を上げた人物と、その官職名の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 小野妹子 — 遣隋使 2. 足利尊氏 — 征夷大將軍 3. 坂上田村麻呂 — 征夷大將軍 4. 中大兄皇子 — 太政大臣
-
- 問4 白河上皇が院政を開始した背景とその政治的目的について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 土地の国有化を進める班田収授法が機能しなくなったため、新しい戸籍制度を確立して律令国家を再建しようとした。 2. 仏教勢力の強まりに対抗するため、上皇は出家して法皇となり、寺院の武装化（僧兵）を完全に禁止しようとした。 3. 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。 4. 平氏や源氏といった武士の力が強くなったため、それらを鎮圧するために天皇が退位して軍事権を握ろうとした。
-
- 問5 日本の平安時代中期にあたる10世紀の世界情勢について述べた文として、歴史的な事実と合致するものを選択してください。 (2022年 青森県公立入試 類似)
1. モンゴル民族が勢力を広げ、フビライ・ハンが元を建国した。 2. 中国では長らく続いた唐が滅亡し、社会が混乱する五代十国の時代に入った。 3. 中国を再統一した隋が、日本に対して朝貢を求める使節を送ってきた。 4. 朝鮮半島では高麗が滅び、李氏朝鮮による統治が始まった。
-
- 問6 平安時代、藤原道長などの藤原北家が政治の実権を握るために用いた手法について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
1. 海外との貿易を独占して莫大な富を蓄え、その経済力によって貴族たちの支持を集めて権力を維持した 2. 仏教の教えを政治に取り入れるため、自らが出家して上皇となり、天皇に代わって政治を行う仕組みを整えた。 3. 地方の武士団を武力で圧倒し、その軍事力を背景に天皇から政治全般の委任を受けた。 4. 自分の娘を天皇と結婚させ、その間に生まれた子を次の天皇に即位させることで、天皇の祖父として実権を握った。
-
- 問7 平安時代に、それまでの大陸的な文化から日本独自の特徴を持った「国風文化」へと変化していった主な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 山口県公立入試 類似)
1. 鉄砲の伝来により、戦国大名が自らの権力を示すために豪華な城郭を築くようになったため 2. 鎖国政策が実施されたことで、長崎の出島のみを通じて海外の限られた情報が入るようになったため 3. 源頼朝が鎌倉に幕府を開き、質実剛健を尊ぶ武士の気風が社会全体に広まったため 4. 遣唐使が停止され、中国の文化を直接取り入れる機会が減った一方で、日本の風土への関心が高まったため
-
- 問8 平安時代末期、平氏の棟梁として急速に勢力を拡大し、武士として初めて律令制下の最高官職に就いた人物が任命された役職として、正しいものを次のうちから選びなさい。 (2016年 三重県公立入試 類似)
1. 摂政 2. 征夷大將軍 3. 太政大臣 4. 関白
-
- 問9 11世紀前半の皇室と藤原氏の家系図を整理した資料によると、藤原道長は一条天皇や三条天皇、後一条天皇といった歴代の天皇に自分の娘たちを次々と嫁がせています。道長がこのような複雑な婚姻関係を幾重にも結んだ政治的な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 地方の武士団と結びつき、軍事力によって朝廷内の反対勢力を抑え込むため 2. 唐の制度にならった官僚制を整備し、実力のある人材を広く登用するため 3. 次の天皇の外祖父（母方の祖父）となり、天皇の後見人として政治の実権を握るため 4. 天皇から位を譲り受けた上皇として、摂政や関白の影響を受けずに政治を行うため
-
- 問10 平安時代中期、社会への不安を背景に「阿弥陀如来を信じれば、死後に極楽浄土へ生まれ変わることができる」という浄土信仰が広まりました。この信仰に基づき、摂政ののちに関白となった藤原頼通が、極楽浄土の様子を再現しようとして宇治に建立した代表的な阿弥陀堂を選びなさい。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
1. 唐招提寺金堂 2. 平等院鳳凰堂 3. 中尊寺金色堂 4. 東大寺大仏殿
-
- 問11 平安時代中期、息子の頼通とともに摂関政治の全盛期を築き、自身の栄華を「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることもなしと思へば」という歌に詠んだ人物は誰か。 (2019年 北海道公立入試 類似)
1. 藤原良房 2. 藤原道長 3. 藤原頼通 4. 藤原鎌足
-
- 問12 平安時代の社会情勢をまとめた記録において、地方で荘園の整理や拡大が進み、貴族の邸宅で寝殿造が流行していた時期に成立した作品として正しいものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
1. 鴨長明が乱世の無常を記した『方丈記』 2. 清少納言が記した『枕草子』 3. 山上憶良らが詠んだ歌を収めた『万葉集』 4. 菅原道真が遣唐使の廃止を提案した際の『建議文』

答え合わせ・解説

問1	答え 2 中尊寺金色堂	平安時代末期、東北地方を支配した奥州藤原氏は、平泉を拠点に100年におよぶ繁栄を築きました。三代（清衡・基衡・秀衡）の遺体が安置されている中尊寺金色堂は、金箔や螺鈿細工を用いた豪華な建築で、当時の高度な工芸技術と阿弥陀仏への信仰を象徴しています。なお、平等院鳳凰堂は平安時代中期の藤原頼通による建築です。
問2	答え 4 藤原氏との血縁関係が薄い後三条天皇が即位したことで、摂関家による実権掌握が困難になった。	藤原頼通の時代に全盛期を迎えた摂関政治ですが、後三条天皇の即位によってその形態が崩れ始めました。後三条天皇自身は院政を行う前に没しますが、その後の白河天皇による院政、さらには武士の台頭へと歴史が動く大きな転換点となりました。なお、院政の仕組みを本格的に始めたのは、後三条天皇の次に即位した白河天皇です。
問3	答え 3 坂上田村麻呂 ― 征夷大將軍	桓武天皇は東北地方への勢力拡大を重視し、軍事的な成功を収めるために有能な武官である坂上田村麻呂を「征夷大將軍」に任命しました。彼は東北地方へ進撃してアテルイなどの蝦夷の指導者を降伏させ、胆沢城を拠点として朝廷の支配地域を北へと大きく広げました。他の選沢肢にある足利尊氏は鎌倉幕府を滅ぼした後の人物であり、時代が異なります。
問4	答え 3 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。	院政が始まる直接の背景には、藤原氏を外戚（母方の親戚）に持たない後三条天皇が即位し、摂関家を軽視する政治を行ったことがあります。その子である白河天皇は、この流れを引き継いで退位後に院政を始め、藤原氏から政治の主導権を奪い返しました。
問5	答え 2 中国では長らく続いた唐が滅亡し、社会が混乱する五代十国の時代に入った。	10世紀初頭の907年に唐が滅亡した後、中国では「五代十国」と呼ばれる分裂と戦乱の時代が約半世紀続きました。この大陸の情勢不安は、日本が遣唐使を停止した理由の一つでもあり、その後の国風文化の発達を促す背景となりました。隋の統一は6世紀末、元の成立は13世紀、李氏朝鮮の成立は14世紀末の出来事です。
問6	答え 4 自分の娘を天皇と結婚させ、その間に生まれた子を次の天皇に即位させることで、天皇の祖父として実権を握った。	藤原氏は、自分の娘を天皇の後（きさき）として送り込み、その間に生まれた皇子を次の天皇に立てる「外戚（がいせき）」関係を築くことで権力を安定させました。天皇の母方の祖父という立場を利用し、天皇が幼いときには「摂政」、成人してからは「関白」として政治の主導権を握る「摂関政治」を確立しました。
問7	答え 4 遣唐使が停止され、中国の文化を直接取り入れる機会が減った一方で、日本の風土への関心が高まったため	9世紀末に遣唐使が停止されたことで、中国（唐）の最新文化を直接輸入する動きが弱まりました。その結果、それまでに蓄積された大陸の技術や思想をベースにしながらも、日本の気候や貴族の生活スタイルに適した「寝殿造（住居）」や「大和絵（絵画）」といった独自の様式が確立されました。
問8	答え 3 太政大臣	律令制における官職の最高位であり、本来は適任者がいなければ欠員とされる名誉ある地位でした。平安時代末期に平清盛が武士として初めてこの職に就いたことは、それまでの貴族中心の政治から、武士が政治の実権を握る時代へと移行する象徴的な出来事となりました。
問9	答え 3 次の天皇の外祖父（母方の祖父）となり、天皇の後見人として政治の実権を握るため	藤原道長は、自分の娘が産んだ皇子が天皇になれば、自分はその天皇の「外祖父」として、摂政などの官職に就き、強力な発言権を持つことができました。そのため、複数の娘を異なる天皇の後にすることで、どの系統から天皇が出ても外戚としての地位を維持できるよう図ったのです。この時代、藤原氏の権力基盤は軍勢力ではなく、天皇との血縁関係にありました。
問10	答え 2 平等院鳳凰堂	平安時代、貴族たちは「末法思想」による社会不安から、死後の救済を求めて阿弥陀如来を本尊とする阿弥陀堂を盛んに造営しました。藤原氏の全盛期を築いた藤原頼通による平等院鳳凰堂は、当時の建築・彫刻・工芸の粋を集めた浄土信仰の象徴的な遺構です。
問11	答え 2 藤原道長	自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になると、外祖父として政治の実権を握った。提示された歌は、自身の権力が満月（望月）のように欠けるところがないと誇ったものである。息子の頼通も長く権力を維持し、宇治に平等院鳳凰堂を建立したことで知られる。
問12	答え 2 清少納言が記した『枕草子』	平安時代中期、土地制度が変化して荘園が増加する一方で、都の貴族たちは国風文化を享受していました。この時期、清少納言はかな文字を用いて、当時の宮廷社会の雰囲気や自然観を『枕草子』という随筆にまとめました。『万葉集』は奈良時代、『方丈記』は鎌倉時代の作品です。